# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 9月 29 日現在

研究種目:基盤研究(B)研究期間:2006~2008課題番号:18390203

研究課題名(和文) 薬物依存症者に対する心理プログラムの有効性に関する

多施設研究

研究課題名(英文) Multi site studies on effectiveness of psychological programs for

drug dependence

研究代表者

森田 展彰 (MORITA NOBUAKI)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師

研究者番号:10251068

#### 研究成果の概要:

刑務所、民間薬物依存社会復帰施設で、薬物依存症に対する認知行動療法プログラムを実施し、有効性を検討した。1つの刑務所では有効性が明確でなかったが、その他の2つの刑務所、1つの民間社会復帰施設では、プログラム施行により、薬物依存に対応する自己効力感の上昇、参加者によるプログラムに対する高い満足度などが認められ、その有効性が示唆された。また施設間の比較により、施設の特性(入所・外来等)や対象(重症度や合併症)を考慮したプログラムを組む必要性が示唆された。

# 交付額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
2006 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2007 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	4,000,000	1,200,000	5,200,000

研究分野:医歯薬学

科研費の分科・細目:社会医学・法医学 キーワード:アルコール医学、薬物依存症

#### 1.研究開始当初の背景

日本では薬物乱用やそれに関連した犯罪が増えており、その対策の必要性が論じられている。しかし、精神病院では、薬物乱用・依存を生じた者に対する薬物の解毒は行うものの、その後に再び薬物使用に戻らないための依存症の回復に対する働きかけが十分なされてこなかった。一方、欧米では薬物依存症に対し,多様な心理療法プログラムが多く開発され,特に認知行動療法(CBT)についてはその有効性が確証されている.日本でも薬物依存症に対する認知行動療法は最近になり先駆的な試みが報告され始めているがその有効性の研究はこれまでほとんど無かった.

#### 2.研究の目的

本研究では、薬物依存症者に対する認知行動療法プログラムを作成し、それを実際に薬物問題をもつ人々に対応している関連機関(刑務所、民間薬物依存症社会復帰施設)で実行し、その有効性を確かめることにある。また、対象の性、機関の特性(司法機関 医療福祉機関など)による効果の違いを検討した。

#### 3.研究の方法

# (1) プログラムの開発

海外の薬物依存症のプログラムを参考にし、また刑務 所や民間社会復帰施設という入所環境で一旦薬物使用 がストップしている薬物依存症者の再発防止をはかる という観点から、プログラム開発において以下の基本 デザインを考えた。

海外研究で最も有効性が実証されている認知行動療法の手法を用い、回復のための考え方や具体的な方法を示すこと。即ち薬物使用に関連する刺激・認知 行動 感情の結びつきを取りあげ、これに代わる新しい認知やスキルを示し、最終的には参加者自身に再使用防止や長期的なセルフケアについて計画を立てさせる

ロールプレイ等による健康な感情表現や、問題解決 法のワークを繰り返し体験させることで、自分の状況 を整理して考え、行動する感覚をつかませる。

ミラーらが開発した動機付け面接法を用いて回復動機付けを行う。一般の薬物使用者は、使っていて何も問題ないという否認の申請が強いが、今回の対象は刑務所や民間社会復帰施設に入っているので、ある程度自分には薬物の問題があるというとは直面させられる状況であり、これを薬物をやめることに取り組む大きな手がかりにする。一方、こうした陰性の結果をすつけること以上に、努力することで回復して良い生活をとりもどせるという肯定的な結果を手に入れられることを示すことが効果に影響を及ぼすこと指摘されているので、肯定的な目標やイメージを増やすワークをいれて、動機付けを高める。

刑務所では退所後の社会的リソース(ダルクやNA、 医療・福祉)へのつなぎに焦点ををおく。

家族関係やトラウマ等の問題について可能な範囲で 触れる。特に女性では、再被害化の防止、セルフケア、 養育について取りあげる。

# (2)各施設での有効性の検証 対象

- ・刑務所:山口県美祢社会復帰促進センターという官民協同刑務所は男子刑務所と女子刑務所が同じ敷地内にある構造をもっており、この2つの刑務所で今回の薬物問題に対するプログラムを施行した。同センターは、我が国でも先進的に教育プログラムを導入して成果を挙げており、今回施行でもセンター長を始めスタッフの方々の多大な協力をいただくことで実現できた。
- ・民間薬物依存症社会復帰施設:DARC(Drug Addiction Rehabilitation Center)のある施設に入寮している薬物依存症者の中で研究協力の承諾を得た28名についてプログラムを施行したが、これを完遂し前後の質問紙を施行できた20名を分析対象とした。

男女の刑務所および DARC の対象者を各々A、B、C 群と名付けた。その内訳は表 1 の通りである。

## 評価方法

N. 1017 0 1-1								
表1.3群	∮の内訳							
	A:男子刑務所	B:女子刑務所	C:民間社会復 帰施設	合計				
人数	26	29	20	75				
平均値	34.9	34.3	32.2	33.9				
標準偏差	7.0	6.5	8.3	7.2				
最小値	24	21	17	17				
最大値	47	48	45	48				
3群の平均年齢に有意差は認められなかった。(分散分析による)								

以下の評価尺度をプログラムの前後に施行した。

・薬物依存に対する自己効力感尺度:薬物依存や欲求への自己効力感を測定する尺度である.第1パートは,全般的な自己効力感を聞く12の質問に対し,5点(あてはまる)~1点(あてはまらない)の5段階で回答

させる.第2パートは、「誘われる」などの個別的な場面で薬物を使用しないでいられる自己効力感を尋ねる12問である.回答は7点(絶対の自信がある)~1点(全然自信がない)の7段階から選ばせる.この尺度は2つのバージョンがあり、version1は、全般的な効力感に関する質問項目が5個で、個別場面の効力感に関する質問が11個であったが、version2は、version1に質問項目をプラスして、全般的効力感の質問項目を12個、個別場面の効力感を12個にしている。A、B群ではversion1を、C群ではversion2を用いた。version2はversion1を含んでいるので、version1の項目のみを3つの群に共通して行ったことになる。

- ・再発リスク尺度 SRRS(Stimulant Relapse Risk Scale): Ogai ら(2007)により作成された薬物の再使用リスクを測定する尺度である.元々,精神刺激薬用に作られたが,他薬物でも使用できる.35項目の質問項目について「3点:あてはまる」「2点:どちらともいえない」「1点:あてはまらない」と回答した点数の相加平均をとる.
- ・**Profile of Mood Status (POMS) 短縮版**:気分を評価する 30 問の質問紙である。
- ・プログラムへの感想:終了時に,参加者にプログラムに対する主観的な満足度と有効性について.6 段階で尋ねた。

倫理的配慮:民間社会復帰施設の参加者について,研究の目的,方法,個人の情報は守られること,自由参加でありいつでも不利益なく中止できることなどを書面と口頭で説明し,書面による同意を得た.この手続きについては筑波大学人間総合科学研究科医の倫理委員会の承認を得ている.また、刑務所での調査に関しては、データをプログラムの改善のみに用いること、個人データは刑務所の外に持ち出さないなどの厳正な取り扱い規則を定めこれに従った。この手続きについて美祢社会復帰促進センター内の矯正教育委員会で検討され、承認を受けた。

# 4.研究の成果

#### (1)開発したプログラムの内容

刑務所で予備的施行を行い、最終的には以下のような プログラムを作成した。

形式:クローズの小集団療法、6 - 15 名の参加者に1 名の司会が加わる。

回数: 刑務所では全 15 回民間社会復帰施設および病院 では、12 回のプログラムを作成した。

時間:1回90分

頻度:週1回を基本とした。

内容:開発の基本方針をもとに、予備的施行を行った上で、作成した刑務所のプログラム内容を表 1 に示した。民間社会復帰団体で行うためのプログラムは今回の研究前にある程度できていたものであるが、表 2 に示した。刑務所と民間社会復帰団体でのプログラム内容の違いは、前者の方が 5 回多いこともあって、スキルトレーングや認知の変化についてのワークや再発防止のための内容が時間をかけて行うものになっている。また刑務所のプログラムでは、出所後に民間社会復帰団体につながることを 1 つ大きな目標としていると、そうした団体の活動のビデオ視聴などが含まれているが、民間社会復帰団体で行うプログラムにはそうした内容は不要であり、含まれていない。

# 表2:刑務所用のプログラムの内容

182	・一門のカリ田のフログフム・	カバ谷
<del>-</del>		107 335
回	テーマ	概要
1	薬物依存症によるダメージと回復	・クスリによってどんな影響をうけてきたかを しろう。・これからどんな自分になりたいかを 考えよう。
2	再発とその「きっかけ」「危険な状況」への対処	・クスリをつかってしまう「きっかけ」や「あぶない状況」を考えて、 どんなふうにきりぬけるかをかんがよう。
3	自分の依存症を認めた上での回 復計画をたてる	・自分のこころや体をどのように回復させて いくかをかんがよう。
4	まわりの人と、良いつながりを持っ お互いに気持ちのいい話し方	・まわりの人とよいつながりをつくる話し方を みにつける。
5	まわりの人と,よいつながりをつくる よくない関係や薬物のさそいに、Noを言う	・薬物などあぶないことにさそわれたときに、 断れるようになる。
6	まわりの人と,よいつながりをつく る 他の人に相談し、問題解決 をおこなう	自分のこまったことをじょうずに相談して、 いっしょに問題を解決する方法を練習する。
7	まわりの人と,よいつながりをつく る 相手の話をきくこと	・聞き上手になろう。 パートナーや友人や子 どもなど親しい人のきもちを尊重したききか た。
8	感情とのつきあい方 - クスリをつかわないで、自分の気持ちをコントロールする	・クスリでごまかすことなく、 じょうずに自分の きもちをコントロールする方法をみにつけよ う。
9	考え 気持ち 行動の結びつきを 知る 上手に考え、気持ちをすっ きりさせる	・自分の考え方によって、感情や行動がかわることを知ろう。・自分をおいつめる考え方をやめて、自分をたすける考え方をみにつけ
10	考え 気持ち 行動の結びつきを 知る 自分を助けて〈れる考え方 をみつける	・自分のたすけになる考え方をみつけるコツ を知ろう。・自分で自分によいアドバイスをお くれるようになろう。
11	現在の回復と今後の課題	・これまでやってきたことをまとめよう。・自分 がどういうときに危ないか、今後どのように やっていこうと思うかを互いに発表する。
12	薬物が身体や心に及ぼす影響について改めて考える	・刑務所をでる時期が近づいた時に、もう一度、薬物による害を思い出して、再発しないことの大事さを思い出す。
13	再発に関係する危険な状況 や考えについて見直す	・ワークブックを見直し、また薬物をつかいた 〈なる「きっかけ: 「あぶない状況、をみなお す。と〈に時間がたつと、「もう大丈夫」とかん がえてしまいやすいので、そこを確かめる。
14	出所後の予定をたてる。	・出所後の1ヶ月の生活のスケジュールをたてる。 自助グループの利用についてもここで確認する。 ・特にあぶないと思われる場面でのりきる方法をロールブレイなどで試す。
15	再発の危険時に用いるカー ドを作る	・再発の危険が迫った時に役に立つ注意事項を書いたカードを作る。内容は「危険な状況、きっかけ」、「再発の危険がせまったとき私はこうする」、「自分へのアドバイス」「私が薬物をやめようと決意したわけ」である。・カードの内容をお互いに紹介しあった上で、参加者同士でもう一枚のカードに励ましの言葉をよせがきする。・プログラム全体の感想を話す。

# 表3:民間社会復帰施設用のプログラムの内容

	_	
回	テーマ	概要
1	薬物依存症によるダメージと回復	メージを取り出し,回復への動機付け を強める。
2	再発とその「きっかけ」「危険な状 況」への対処	・どんなにひどい目にあっても、薬物 使用の「欲求」が起きてくる理由につ いて知る。
3	自分を癒してくれるものと危ない ものの区別(再発のサインがわ かること)	・クリーンな状態と、依存症サイクルの状態との区別が付けられる。 ・これまでの人生を振り返り、依存症サイクルから抜け出してきた人生の転機(底つき体験)を思い出せす。 ・今後、依存症サイクルに戻ることから自分を守ってくれるものは何か、警戒しなければならないサインは何かにフいて理解する。
4	回復と癒し(回復に必要なものを 考える)	・自分自身の回復の段階を見直すこと。 ・回復に役にたつ「自分自身の癒し」 を進めていくために必要なスキルや援助してくれる人やモノについて考える。
5	他の人に相談することが上手に なろう	・再発の危険な時や仕事のこと将来のことなどで迷ったときに、上手に他の人に相談する方法を練習し、そのコツをつかむこと。
6	コミュニケーションのこつ	・自分の気持ちを相手に伝えることが 上手になる。特にアサーティブな法 を練習するの気持ちをうけとめることが 上手になる。 ・コミュニケーションのコツをつかむ ことで、他の人とのつながりを強く し、ストレスをためにくくして、再発 を防ぐことができることを理解する。
7	薬物のさそいを断る方法につい て	<ul><li>薬物をつかいそうな危険なところに誘われたり、「薬を使おう」といわれたときに、その場で、うまく断るスキルを学ぶ。</li></ul>
8	欲求をひきおこす「心の声」への 対処(急場をしのく方法,歪んだ 認知を変えること)	・欲求を起こす心の声(「考え方」 「感情」「トラウマ記憶」)について 考える。 ・薬物に結びつく「考え方」から別の 「考え方」への変化を試みる。 ・いざというときに、自分自身を助け る「言葉」やその他の方法を考える。
9	HIV/エイズ、異性との付き合いに ついて	・HIVとエイズおよびC型肝炎について 正しい知識を得て、それらを予防する ための性行動や薬物摂取について気を つける点を学ぶ。 ・異性とのつきあい方を考える。
10	再発の危険時に用いるカードを作 る	・これまでのセッションのまとめをして、再発の危険なときの対処法を確認する

# (2) 有効性の検討についての結果 プログラム前の3群における比較

3 つの群における事前のデータの比較を施行した。 その結果を表 4 に示した。

<b>=</b> 4	2#11-+11-7 プロゲニ	5ム前の心理テスト得点の比較	
<b>7</b> √4.	3件におけるノロクラ	7.4.則())川、埋ナ人ト会点())に、鮫	

	+. 3#+ICO17 07 I 7		A群:男子	B群:女子	プレレ FX	
			刑務所	刑務所	C 群: DARC	統計検定
			N = 26	N =29	N = 20	の結果
医物	匆依存に対する自己効 力感	尺度				
	全般的効力感尺度ver.1総	平均値	20.27	20.97	16.25	A. C P. C
	得点(5項目合計)	標準偏差	3.34	3.76	4.84	A>C,B>C
	場面効力感尺度ver.1総得	平均値	48.31	50.62	44.65	
	点(11項目合計)	標準偏差	5.86	3.85	17.78	
写	<b>発リスク尺度</b>					
	- # m	平均値	1.50	1.29	1.34	
	再使用不安と意図	標準偏差	. 32	.34	. 47	
		平均値	1.50	1.56	1.11	
	感情面の問題	標準偏差	. 35	.35	.43	A>C,B>C
	**** / T   / F   F   .   .	平均値	1.14	1.07	.93	
	薬物使用への衝動性	標準偏差	. 26	.18	.67	
	薬物へのポジティブ期待と	平均値	1.58	1.46	1.21	
	刺激脆弱性	標準偏差	.51	.51	.62	
	** 中型 *** 0	平均値	1.89	1.76	2.70	
	薬害認識の欠如	標準偏差	.50	.48	.53	A <c,b<c< th=""></c,b<c<>
		平均値	1.82	1.59	2.77	
	病識の強さ	標準偏差	.53	.49	.54	A <c,b<c< td=""></c,b<c<>
		平均値	7.62	7.14	7.29	
	再発リスク総得点	標準偏差	1.23	1.15	1.68	
o	MS(T得点)					
	緊張 - 不安	平均值	50.54	48.66	-	
		標準偏差	12.07	9.02	-	
	抑うつ	平均値	51.42	50.97	-	
		標準偏差	9.47	8.71	-	
	攻撃性 - 敵意	平均値	44.27	45.69	-	
		標準偏差	6.73	9.15	_	
	活気	平均値	41.38	48.62	-	A <b< th=""></b<>
		標準偏差	9.59	11.31	-	
	疲労感	平均值	43.12	44.79	-	
		標準偏差	7.00	8.67	-	
		平均値	50.81	46.45	-	
		標準偏差	10.64	7.76	-	
	感情的問題総合得点	平均値	17.04	16.07	-	

統計的検定は、POMSでは分散分析、その他はTukey法による多重比較を施行し、P<0.05で有意な差があったものを記した。

表4に示す通り、事前において、薬物依存に対する自己効力感尺度の「全般的効力感尺度 ver1.総得点」において、民間社会復帰団体の対象の方が、2つの刑務所の対象よりも、有意に低い得点であった(Tukey法,P<0.05)。また、再発リスク尺度では、「感情面の問題」得点においては、民間社会復帰施設の対象の方が、刑務所の対象よりも、有意に低い得点であり、一方「薬害認識欠如」「病識の強さ」の得点では、民間社会復帰団体の対象の方が、2つの刑務所代所の対象よりも、有意に高い得点であった(Tukey法,P<0.05)。

# 自己効力感尺度得点のプログラム前後の変化

3 群における自己効力感尺度得点のプログラム前後 の変化を表 5、表 6、表 7 に示した。

A 群では「使用のきっかけを避けられる」、「使いたくなっても切り抜けられる」、「薬物がなくても生活できる」、「何があっても落ち着ける」、「相手に自分の考えがいえる」、全般的効力感尺度 ver.1 総得点(5項目)全般的効力感尺度 ver.2 総得点(12項目)、「身体不調」「孤独感」のある時に薬物を使わない自信、場面効力感尺度 ver1.総得点について、有意な得点の上昇が認められた(Wilcoxon の符号付き順位検定)。

表5. A群男子刑務所における	日	己効刀感尺度? プログラム前			<u>ど化</u> ラム後	
			標準		標準	+
	N	平均値	偏差	平均値	偏差	
全般的な自己効力感						n.
使用のきっかけを避けられる	26	3.81	0.98	4.27	0.87	,
使いたくなっても切り抜けられる	26	3.85	1.05	4.23	0.76	,
薬物がなくても生活できる	26	4.46	0.81	4.73	0.53	,
困った時,薬に頼らず相談できる	26	4.23	0.82	4.23	0.91	n.
何があっても落ち着ける	26	3.92	0.98	4.31	0.68	
嫌な記憶・気分を乗り切れる	26	4.08	0.89	4.31	0.74	n.
感謝を相手に伝えられる	26	4.38	0.75	4.50	0.71	n
人の痛みや苦しみを理解できる	26	4.35	0.69	4.50	0.65	
	_			_		n
相手に自分の考えを言える	26	3.92	1.02	4.35	0.85	Н
依存症となった原因がわかる	26	4.19	0.90	4.31	0.84	n
生き方を変えようと思っている	26	4.42	0.95	4.58	0.95	n
今日一日を薬を使わず生きる	26	4.19	0.94	4.46	1.03	n
全般的効力感尺度ver.1総得点	26	20.27	3.34	25.35	7.70	*
(5項目合計)		20.27	0.0 .	20.00		H
全般的効力感尺度ver.2総得点 (12項目合計)	26	49.81	6.20	52.77	6.31	'
個別場面の自己効力感(各場)	前です	放求への	か対切の	0自信)		Т
ウスリの誘い	26	5.04	1.75	5.65	1.32	١.
人の使用を見る	26	4.88	1.88	5.38	1.39	n
火の使用を見る 少しなら大丈夫と思うこと	26	4.92	1.79	5.23	1.45	n
セックスの欲求	26	5.15	2.01	5.23	1.88	n
ストレスや疲れ	26	5.35	1.67	5.88	1.18	
ヘドレス で <i>1</i> 反1 t 不眠	26	6.15	1.43	6.38	0.85	n
N眠 身体の不調	26	5.38	1.88		1.35	11
身体の不調 人間関係の悩み			1.88	6.08		Н
	26	5.77	1.34	6.12	0.90	n
落ちこみや不安 腹立ち	26	5.62 5.85				-
	26		1.64	6.00	1.50	n
狐独感・さびしさ	26	5.50	1.68	6.00	1.36	-
昔の嫌な記憶 温売効力感 日度 1805 1802 18	26	5.92	1.38	6.35	0.98	ŀ.
場面効力感尺度ver.1総得点 (11項目合計)	26	48.31	5.86	64.15	11.01	*
場面効力感尺度ver.2総得点						H
(12項目合計)	26	65.54	16.24	70.50	11.84	-
n.s.: 有意差なし, + :P<0.10, *:F Wilcoxon の符号付き順位検定に	よる	)5, **:P<	<0.01, *	**:P<0.00		
NS: 有意差なし, +:P<0.10,*:F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における	よる	)5, **:P< 已効力原	<0.01, * <sup>*</sup> <u> 感尺度</u> ( ラム前	**:P<0.00	E化 54後	
n.s.: 有意差なし, + :P<0.10, *:F Wilcoxon の符号付き順位検定に	よる	)5, **:P< 已効力原	。 0.01, * <sup>*</sup> <mark> 葵尺度</mark> 行 ラム前 標準	**:P<0.00	<u>5仏後</u> 標準	
n.s.: 有意差なし, + : P<0.10, * : F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における	よる	)5, **:P< 己効力原 プログ	<0.01, * <sup>*</sup> <u> 感尺度</u> ( ラム前	**:P<0.00 <b></b>	E化 54後	
n.s.: 有意差なし, + : P<0.10, * : F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における 全般的な自己効力感	よる	05, **:P< <u> </u>	<0.01, * <sup>*</sup> <mark>感尺度</mark> <b>ラム前</b> 標準  偏差	**:P<0.00 <b>号点の変</b> <b>プログ</b> 平均値	<u>5仏後</u> 標準 偏差	
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感	よる 自 29	5, **:P。 <u>ラ効力原</u> プロケ 平均値 4.10	。 の.01, * 感尺度行 ラム前 標準 偏差 1.01	**:P<0.00 导点の変 プロケ 平均値 4.59	<b>E化</b> ラム後 標準 偏差 0.73	₩
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる しいたくなっても切り抜けられる	よる 自立 29 29	35, **:P。 3効力原 プロケ 平均値 4.10 4.10	<ul><li>O.01, **</li><li></li></ul>	**:P<0.00 <b>寻点の変</b> プログ 平均値 4.59 4.52	5化 5A後 標準 偏差 0.73 0.63	
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる	よる 自立 29 29 29	2. **:Ps 2. 対力原 アロケ 平均値 4.10 4.10 4.52	<u> </u>	**:P<0.00 导点の変 プロケ 平均値 4.59 4.52 4.69	5化 5 <u>A後</u> 標準 偏差 0.73 0.63 0.54	n
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時,薬に頼らず相談できる	よる 自立 29 29 29 29	25, **:P。 2効力原 プロケ 平均値 4.10 4.10 4.52 4.31	<u>感尺度行ん</u> 万ム前 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81	**:P<0.00 <b>寻点の変</b> <b>7 ロ</b> が 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76	<u>ラム後</u> 標準偏差 0.73 0.63 0.54 0.58	n
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける	よる 自立 29 29 29 29 29	2効力原 プロケ 平均値 4.10 4.52 4.31 3.93	<u> </u>	**:P<0.00 	ラム後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75	n
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける	よる 自立 29 29 29 29	2効力原 プロケ 平均値 4.10 4.52 4.31 3.93	<u>感尺度行ん</u> 万ム前 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81	**:P<0.00 <b>寻点の変</b> <b>7 ロ</b> が 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76	<u>ラム後</u> 標準偏差 0.73 0.63 0.54 0.58	n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における を般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる	よる 自立 29 29 29 29 29	2効力原 プロケ 平均値 4.10 4.52 4.31 3.93	<u> </u>	**:P<0.00 	ラム後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75	n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における を般的な自己効力感 東用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる	よる 自立 29 29 29 29 29 29	2 2 3 カ カ 中 が値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34	<u>感尺度</u> ( ラム前 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08	**:P<0.00 寻点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.59	<u>ラム後</u> 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57	n *
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B群女子刑務所における を般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いた(なっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる	29 29 29 29 29 29 29 29	ファウ 平均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48	<u>感尺度</u> ( ラム前 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83	**:P<0.00 専点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.59 4.76	<u>5</u> 仏後 <u>7</u> 仏後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58	n *
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B群女子刑務所における を般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる 相手に自分の考えを言える	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29	ファイン 105、**:Pマンファイン 105、**:Pマンファイン 107 平均値 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90	成尺度行 方ム前 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90	**:P<0.00 	5化 ラム後 標準差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70	n *
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における を般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があいても気分を乗り切れる 感談部相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる 相手に自分の考えを言える 依存症となった原因がわかる	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29	2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41	<u> 成尺度</u> 行 方ム前標準偏差  1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87	等点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76	<u>5</u> 仏後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49	n n n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時薬に頼らず相談できる 可がおにも気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる 相手に自分の考えを言える な存症となった原因がわかる 生き方を変えようと思っている	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 4.10 4.10 4.10 4.31 4.31 4.31 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52	<u> </u>	**:P<0.00 子	<u>5</u> 仏後 標準偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68	n ** n n ** n n n **
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 同がおに憶・気分を乗り切れる 歳談割を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる 相手に自分の考えを言える な存症となった原因がわかる 生き方を変えようと思っている 今日一日を薬を使わず生きる	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29	2. **:P・ 2効力原 ア均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66	<u> 成尺度</u> 行 方ム前標準偏差  1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87	等点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76	<u>5</u> 仏後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49	n n n n
ns:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時,薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みやの考えを言える 人の痛みやの考えを言える な存症となった原図がわかる 生き方を変えようと思っている 今日一日を薬を使わず生きる 全般的効力感尺度ver.1総得点	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 4.10 4.10 4.10 4.31 4.31 4.31 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52	<u> </u>	**:P<0.00 子	<u>5</u> 仏後 標準偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68	n n n n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みやつ苦しみを理解できる 相で主となった原因がわかる 生き方を変えようと思っている 今日一日を薬を使わず生きる 全般的効力感尺度ver.1総得点 5項目合計)	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 2. **:P· 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97	<u> </u>	**:P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.69 4.76 4.76 4.28 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90	<u>ラム後</u> 標準偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16	n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.8群女子刑務所における 表6.8群女子刑務所における を触的な自己効力感 使りたくなっても切り抜けられる 変物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる 相手に自分の考えを言える な存症となった原因がわかる 生き方を変えよらと思っている 今日一日を薬を使わず生きる 全般的効力感尺度ver.1総得点 5項目合計) 全般的効力感尺度ver.2総得点	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2効力原 ア均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66	<u>感尺度名</u> <u>方人前</u> 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.67	**:P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83	5化 ラム後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38	n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可がおに他・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる 相手に自分の考えを言える な存症となった原因がわかる 生き方を変えようと思っている 今日一日を薬を使わず生きる 全般的効力の限度ver.1総得点 5負頭自合計) 全般的効力感尺度ver.2総得点 (12項目合計)	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 2. **:P-4 4. **:P-4 5. **:P-4	<u>成尺度7 方人前</u> 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.87 0.67 3.76 6.79	**・P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45	<u>7.16</u> 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16	n
n.s.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時薬に頼らず相談できる 可がむ憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる はたらなった原因がわかる 生き方を変えよられる 人の痛みや苦しみを理解できる はたられる 人の痛みや苦しみを理解できる はたられる 人の痛みであると思っている 今日一日を薬を使わず生きる 全般的効力感尺度ver.1総得点 全般的効力感尺度ver.2総得点 (12項目合計) 個別場面の自己効力感(各場面)	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2 2 2 3 3 4 4 4 4 4 4 5 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	<u>成尺度7 方人前</u> 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.87 0.67 3.76 6.79	**:P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45	<u>7.16</u> 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16	n n n n n n *
ns.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Vilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌敬を相手に伝えられる の痛みや苦しみを理りれる 感謝を相手に伝えられる を対しなった原因がわかる はましなった原と理解できる はましたなった原とでに、 会とですると思っている 今日の対力を変えようと思っている 今日の対力感尺度ver.1総得点 全般的効力感尺度ver.2総得点 には項目合計) の属り場面の自己効力感(各場で カスリの誘い	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2効力児 アロゲ 平均値 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69	<u> </u>	**:P<0.00 寻点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 <b>D自信</b> ) 6.07	7.16 7.18 7.18 7.18 7.16 7.16 7.16 7.16 7.16 7.16 7.16 7.16	n *** n n n ** **
ss:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Vilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても短り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人のに自分の考えを言うれる 人のに自分の考えを言うれかる 主き方を変えようと思っている 今日一日を薬を使わず生きる 全般的効力感尺度ver.1総得点 5項目合計) 全般的別力感尺度ver.2総得点 12項目合計) 2般的自合計)自己効力感(各場で 12項目の誘い	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 <b>飲水へ</b> 6 5.76 5.34	<u> </u>	**:P<0.00 事点の変 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.76 4.76 4.76 4.76 4.76 4.79 4.62 4.79 55.45 <b>D自信</b> ) 6.07 5.48	<u>ラム後</u> 標準偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.57 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16	n * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
ss:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における を般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みやつ考しみを理解できる 相手には分かを理解できる 社会で変えを使いがある 生き方を変えまをけかず生きる 会般的効力感尺度ver.1総得点 全般的効力感尺度ver.2総得点 12項目合計) 全般的効力感にしなった。 2000年の対力感(各場で 12項目の計) この使用を見る としなら大丈夫と思うこと	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2効力児 アロゲ 平均値 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69	<u> </u>	**:P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 <b>D自信</b> ) 6.07 5.48 5.86	<b>5</b> 化 <b>7</b> 五後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.79 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48	n * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
ns:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.8 群女子刑務所における 表6.8 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可がなられる 大のた時、薬に頼らず相談できる 可がなられる 大の病みやきしみを理解できる 機談制を相手に伝えられる 人の病みやでもできる はな記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の事の対力をできる はなたいる 今日一日を薬を使わず生きる 会日一日を薬を使わず生きる 会りの対力感にしない。 (121項目合計) 国別場面の自己効力感(各場で カスリの誘い 人の使用を見る 少しなら大丈夫と思うこと セックスの欲求	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2効力原 ア均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 <b>欲求へ</b> 5.76 5.34 5.45 5.97	<u>感尺度名</u> 方人前 標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.67 3.76 6.79 <b>対処の</b> 1.46 1.74 1.53 1.35	**・P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 <b>D自信</b> ) 6.07 5.48 5.86 6.38	<b>5化</b> <b>ラム後</b> 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.12	n n n n *** *** ***
ns:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時薬に頼らず相談できる 可がむ憶・気付えられる 人の痛みや苦しみを理解できる はなったもうを表明切れる ・感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる はなったられる 人の痛みや苦しみを理解できる はなられるといる 大の病みであるとであるといる 今日の効力感尺度ver.1総得点 全般的効力感尺度ver.1総得点 (12項目合計) 個別場面の自己効力感(各場で がスリの誘い 人の使用を見る 少しならなの欲求 ストレスや疲れ	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2効力児 平均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 飲求への 5.76 5.38	<u> 成尺度</u> 7 人前準偏差  1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.67 3.76 6.79 <b>対処</b> 1.46 1.74 1.53 1.35 1.70	**:P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 <b>D自信</b> ) 6.07 5.48 6.38 6.28	5化 ラム後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.12 1.07	n n n n n n n n n n n n n n n n n n n
ns:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可がおは、気分を乗り切れる 歳該謝を相手に分伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる はたられるとののであると思っている 今日の対力があるであると思っている 今日の対力が表別であると思っている 今日の対力が表別であると思っている 今日の対力が表別であると思っている 今日の対力が表別であると思っている 今日の対力が表別であると思うには はなりでは、までは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2効力類 平均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 <b>欲求へ</b> 5.76 5.34 5.45 5.97 5.38 6.03	<u> </u>	##: P<0.00   特点の変 プログ 平均値   4.59 4.69 4.76 4.28 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90   55.45   D自信) 6.07 5.48 6.28 6.28 6.72	7.16 3.81 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.12 1.07 0.53	n n n *** *** *** *** *** *** ***
ns:: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても短話できる 困った時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に自分の考えられる であるでも残られるを理解できる 相手に自分の考えられる としている 会としている のとしている のとしている のとしている のとしている のとしている なったっている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったしている なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな なったいな な	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 <b>飲まへ</b> 5.76 5.34 5.45 5.97 5.38 6.03 5.86	8. (1.01	等点の変 平均値 4.59 4.59 4.69 4.76 4.28 4.76 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 56.66 6.07 5.48 5.86 6.28 6.72 6.69 6.69	5化 ラム後 標準 (編差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.12 1.07 0.53 0.54	n n n ***
ns.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Wilcoxon の符号付き順位検定に表6.B群女子刑務所における 全般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 更いたくなっても切り抜けられる 更いたくなっても切り抜けられる 更いたくなっても切り抜けられる 薬を見かった時、薬に頼らず相談できる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝みられる 理は記憶・気分を乗り切れる できる できるを要がわれるを理ないる はにはないないできない。 もなったらと思っている 今日一日を変素を使わず生きる 全般的効力感尺度ver.1総得点 には2項目合計) 全般的効力感に度ver.2総得点 には2項目合計) 全般的対力感にとなった。ととで・2総得点 には12項目合計) との使用を見る しいなら、のである となって、2を関うこと となって、2を関うこと となって、2を関うこと となって、2を関うこと となって、2を関うこと となって、3を関すと思うこと となって、2を関すと思うこと となって、2を関すと思うこと となって、2を関すと思うこと となって、2を関すと思うこと となって、2を関すと思うこと となって、3を関すにない、4を可能はない、4を可能はないない、4を可能はないない、4を可能はないないないないないないないないないないないないないないないないな	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 2. **:P-0 4.10 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 <b>***</b> **:P-0 <b>***</b> **:P-0 <b>**</b> **:P-0 <b>***</b> **:P-	co.0.1、**   **   **   **   **   **   **   **	等点の変 デログ 平均値 4.59 4.59 4.69 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 <b>自信</b> ) 6.07 5.48 6.38 6.28 6.72 6.69 6.38	<b>5</b> 化 <b>7</b> 上後 標準 (編差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.12 1.05 0.53 0.54	n n n *** *** *** *** *** *** *** *** **
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Milcoxon の符号付き順位検定に表6.B群女子刑務所における 表6.B群女子刑務所における 表6.B群女子刑務所における 表6.B群女子刑務所における 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がはくても生活できる 国があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の作品となった原としまっている 今日一日を変え薬を使わず生きる 全般的効力感にしまっている今日の対かのを 全般の対力感にと変え薬を使わず生きる 全般の対力感にといる 今日の対力感にあっている 今日の対力感になった。と思っている 今日の対力感にあっている 今日の対力を変えを使わず生きる 全般の対力感になった。と思っている 今日の対力を表をできる とのがあるとしまっている 今日の対力を表しまっている 今日の対力を表しまっている 今日の対力を表しまっている 今日の対力を表しまっている 今日の対力を表しまっている 今日の対力を表しまって、と思うには、 は12項目合の自己効力感(各場で カスリの時に見る 少しなら大の欲求 ストレスや疲れ 不眠 身体の不調 人間関係の悩み 落ちこみや不安	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	25. **:P-4   一字   一字   一字   一字   一字   一字   一字   一字	○0.01、**	**・P<0.00 事点の変 プログ 平均値 4.59 4.52 4.69 4.76 4.28 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 <b>26.69</b> 6.38 6.28 6.79 6.38 6.21	支化       方 後       標準備差       0.73       0.63       0.54       0.58       0.75       0.58       0.44       0.70       0.49       0.68       0.38       7.16       3.81       1.19       1.48       1.22       1.12       1.07       0.54       0.94       0.98	n n n n * * * * * * * * * * * * * * * *
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Milcoxon の符号付き順位検定に 表6.B群女子刑務所における を般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時,薬に頼らず相談できる 何がな記憶・気分を乗り切れる 感謝を相手に伝えられる 人の痛みや苦しみを理解できる はな記値を持ちを乗りれる。 大の痛らずれる 人の痛らかの考えを言える を会しなった。と思がわかる 生き方を変えようと思うでいる 今日の対力感尺度ver.1総得点 (5項目の対力)感尺度ver.2総得点 (12項目合計) 全般的効力の誘い 人のなら大の欲求 ストレスや疲れ 不眠 身体関係の悩み 落ちこみや不安 複立ち	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	25、**:P・ 2効力類 ア均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 飲寒への 5.76 5.34 5.45 5.97 5.38 6.03 5.66 5.97	SP   SP   SP   SP   SP   SP   SP   SP	等点の変 プログ 平均値 4.59 4.59 4.76 4.28 4.76 4.76 4.28 4.79 4.62 4.83 27.90 55.45 D自信) 6.07 5.48 6.28 6.28 6.28 6.28 6.21 6.31	支化       支払後       標準備差       0.73     0.63       0.54     0.58       0.75     0.57       0.58     0.44       0.70     0.49       0.68     0.38       7.16     3.81       1.19     1.48       1.22     1.12       1.07     0.53       0.54     0.94       0.98     1.11	n
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Milcoxon の符号付き順位検定に表6.B群女子刑務所における 表6.B群女子刑務所における を般的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物がなくても生活できる 困った時、薬に頼らず相談できる 同があっても落ち着ける 嫌感制を相手に入られる 人の痛みやおきのたまできる 利手にとなった。多と思うできる は存症となった。のと思うできる との対力感尺度で1.1総令のできる 全般的自合計) 全般的自合計) を般的自合計) の使用を見る 少しなら大な求 ストレスや疲れ 不眠 身体の不調 人間係の悩み 落ちこみや不安 複立ち	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 4. **:P・ 5. *	成尺度行 方人前標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.67 3.76 6.79 <b>D対処</b> 1.46 1.70 1.27 1.19 1.40 1.53 1.70 1.27 1.19 1.40 1.45	***:P<0.00	5化 ラム後 標準 (偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.07 0.53 0.54 0.98 1.11 1.04	n n n n n n n n n n n n n n n n n n n
n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, *: F Milcoxon の符号付き順位検定に 表6.B 群女子刑務所における 表6.B 群女子刑務所における 使的な自己効力感 使用のきっかけを避けられる 使いたくなっても切り抜けられる 薬物があったも落ち着ける 嫌いないでもないできる 困った時、薬に頼らず相談できる 同があったも落ち着ける 嫌いを記してもないできる 国があいに、気分を乗り切れる 感謝相手にとんみを再きる 内手にととなった。と思っている 今日の対力を変感と思っている 今全般的合計) 全般的自合計) の保しの対力の誘い 人の復用を見る 少しなら大文や波れ 不眠 身間のの自己効力感(各場で クリックスの彼れ 不明 はのでは、このでは、 のでは、 ののに、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 のの	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	25、**:P・ 2効力類 ア均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 飲寒への 5.74 5.34 5.45 5.97 5.38 6.03 5.86 5.97 5.79 6.07	SP   SP   SP   SP   SP   SP   SP   SP	##: P<0.00	5化 ラム後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.42 1.12 1.07 0.53 0.54 0.91	n. *** n. n. *** n. n. *** n. n. *** n. n. *** ***
ns.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Nilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における を般的な自己効力感 更別のきっかけを避けられる 更いたくなくても知らずき者はできる 更いがあっても知らずき者はできる 可があっても落ち着ける 嫌な記憶・気分伝えら理事活のできる 嫌な記憶・気分伝えら理事活のできる は存ちたられる を理うなったようと理解える ののでは、まるとのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 2. **:P・ 4. **:P・ 5. *	成尺度行 方人前標準 偏差 1.01 1.01 0.78 0.81 1.00 1.08 0.83 0.63 0.90 0.87 0.67 3.76 6.79 <b>D対処</b> 1.46 1.70 1.27 1.19 1.40 1.53 1.70 1.27 1.19 1.40 1.45	***:P<0.00	5化 ラム後 標準 (偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.48 1.22 1.07 0.53 0.54 0.98 1.11 1.04	n n n n n n n n n n n n n n n n n n n
I.S.: 有意差なし、+: P<0.10、*: F Vilcoxon の符号付き順位検定に表6.B 群女子刑務所における 全般的な自己効力感 更用のきっかけを避けられる 更れたくなくても短いがあきる。 可があったも気を重力がある。 では、気に対している。 のがあっても対しなを要別がある。 のがあっても対しなを要別がある。 のがあったも満まる乗り切れる のがあったも気をできる。 はないでは、まずれる。 はないでは、まずれるいではないでは、まずれるいではないではないではないではないではないではないではないではないではないではな	29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 29 2	25、**:P・ 2効力類 ア均値 4.10 4.10 4.52 4.31 3.93 4.34 4.48 4.41 3.90 4.41 4.52 4.66 20.97 51.69 飲寒への 5.74 5.34 5.45 5.97 5.38 6.03 5.86 5.97 5.79 6.07	SP   P   P   P   P   P	##: P<0.00	5化 ラム後 標準 偏差 0.73 0.63 0.54 0.58 0.75 0.57 0.58 0.44 0.70 0.49 0.68 0.38 7.16 3.81 1.19 1.42 1.12 1.07 0.53 0.54 0.91	n. *** *** *** ***

		フ'ロケ	ラム前	ブロク	が後	_
	N	平均値	標準 偏差	平均 値	標準 偏差	
全般的な自己効力感						
使用のきっかけを避けられる	20	3.35	1.27	3.75	1.07	n.s.
使いたくなっても切り抜けられる	20	3.10	1.21	3.65	1.14	+
薬物がなくても生活できる	20	3.55	1.36	3.90	1.21	n.s.
困った時,薬に頼らず相談できる	20	3.20	1.36	3.50	1.05	n.s.
何があっても落ち着ける	20	3.05	1.23	3.70	0.98	*
全般的効力感尺度ver.1総得点 (5項目合計)	20	16.25	4.84	18.50	4.29	*
個別場面の自己効力感(各場面で	で欲る	大への対	処の自	信)		
クスリの誘い	20	3.75	1.94	4.25	2.00	n.s.
人の使用を見る	20	3.95	2.04	3.25	1.80	+
少しなら大丈夫と思うこと	20	3.60	2.04	3.90	2.00	n.s.
セックスの欲求	20	4.30	2.13	4.20	2.26	n.s.
ストレスや疲れ	20	3.75	1.74	4.80	1.61	**
不眠	20	4.55	1.93	4.95	1.70	n.s.
身体の不調	20	4.45	1.82	4.80	1.82	n.s.
人間関係の悩み	20	4.30	1.92	4.20	1.58	n.s.
落ちこみや不安	20	4.25	1.97	4.30	1.75	n.s.
腹立ち	20	4.40	1.88	4.70	1.66	n.s.
孤独感・さびしさ	20	4.00	1.92	3.85	1.84	n.s.
場面効力感尺度ver.1総得点(11 項目合計)	20	44.65	17.78	47.40	16.46	+

n.s.: 有意差なし, +:P<0.10, \*:P<0.05, \*\*:P<0.01 Wilcoxon の符号付き順位検定による

B群では、「使用のきっかけを避けられる」、「使いた くなっても切り抜けられる」、「困ったときに薬に頼ら ず相談できる」、「人の痛みや苦しみを理解できる」「何 があっても落ち着ける」、「相手に自分の考えがいえる」 「依存症になった原因がわかる」、全般的効力感尺度 ver.1 総得点(5項目) 全般的効力感尺度 ver.2 総得点 (12項目)「セックスの欲求」ストレスやつかれ」不 眠」「腹立ち」「昔の嫌な記憶」「身体不調」の時に薬物 を使わない自信、「孤独感のある時に薬物を使わない自 信」、場面効力感尺度 ver1.総得点(11 項目) 場面効 力感尺度 ver2.総得点(12 項目)について有意な得点 の上昇が認められた(Wilcoxon の符号付き順位検定)。

C群では、「何があっても落ち着ける」、「相手に自分 の考えがいえる」、「依存症になった原因がわかる」、全 般的効力感尺度 ver.1 総得点(5項目)「ストレスやつ かれ」の時に薬物を使わない自信について、有意な得 点の上昇を認めた(Wilcoxon の符号付き順位検定)。

## 再発リスク尺度得点のプログラム前後の変化

3群における再発リスク尺度(SRRS)得点のプロ グラム前後の変化を表8、表9、表10に示した。

A 群では、「薬害認識の欠如」得点と「病識の強さ」 得点がプログラム前後で有意に低下していた。その他 のサブスケールや再発リスク総得点では有意な変化を 認めなかった (対応のある T 検定 )。

B群では、「薬害認識の欠如」得点と「病識の強さ」 得点がプログラム前後で有意に低下していた。その他 のサブスケールや再発リスク総得点では有意な変化を 認めなかった (対応のある T 検定 )。

C 群では、全てのサブスケールや再発リスク総得点 では有意な変化を認めなかった(対応のある T検定)。

#### POMS 得点のプログラム前後の変化

A 群では、POMS 得点は、抑鬱得点が有意に低下し た。B 群では、緊張・不安得点と抑鬱得点が有意に低 下していた(対応のある T 検定)。両群ともプログラ ムの前後で、Total Mood Disturbance 得点は有意に低 変化していなかったが、B 群では、有意傾向が認めら れた (P<0.10)。 C 群では POMS は用いていない。

表8.A群男子刑務所における再発リスク尺度得点の変化

尺 44-7-7-4 11		プログラム前		プログ				
た サブスケール	N	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率
再発リスク尺度								
再使 用不安と意図	26	1.50	0.32	1.48	0.39	0.19	25	n.s.
感情面の問題	26	1.50	0.35	1.57	0.39	-0.78	25	n.s.
薬物使用への衝動	26	1.14	0.26	1.17	0.27	-0.51	25	n.s.
薬物 へのポジティブ 期待と刺激脆弱性	26	1.58	0.51	1.61	0.50	-0.25	25	n.s.
薬害 認識の欠如	26	1.89	0.50	1.67	0.48	2.72	25	*
病識の強さ	26	1.82	0.53	1.65	0.46	2.39	25	*
再発リスク総得点	26	7.62	1.23	7.51	1.22	0.43	25	n.s.
n.s.: 有意差なし, *:P<0	.05,	統計的	食定は,対	付応のあ	るT検定	による。		

表9.B群女子刑務所における再発リスク尺度得点の変化

			プログラム前 プログラ			グラム後		
尺 サブスケール	N	平均值	標準偏 差	平均值	標準偏 差	t 値	自由度	有意確 率
再発リスク尺度								
再使用不安と意図	26	1.50	0.32	1.48	0.39	0.19	25	n.s.
感情面の問題	26	1.50	0.35	1.57	0.39	-0.78	25	*
薬物使用への衝 動性	26	1.14	0.26	1.17	0.27	-0.51	25	*
薬物へのポジティ ブ期 待と刺激脆弱 性	26	1.58	0.51	1.61	0.50	-0.25	25	n.s.
薬害認識の欠如	26	1.89	0.50	1.67	0.48	2.72	25	*
病識の強さ	26	1.82	0.53	1.65	0.46	2.39	25	n.s.
再発リスク総得点	26	7.62	1.23	7.51	1.22	0.43	25	n.s.

n.s.: 有意差なし, \*: P<0.05, 統計的検定は,対応のあるT検定による。

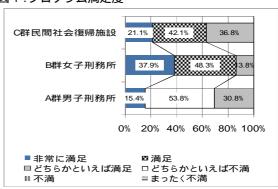
表10. C群民間社会復帰における再発リスク尺度得点の変化

₽ →		プログ	ラム前	プログ	ラム後			
尺 サブスケール 	N	平均值	標準偏 差	平均值	標準偏 差	t 値	自由度	有意確 率
再発リスク尺度								
再使用不安と意図	20	1.34	0.47	1.40	0.54	-0.58	19	n.s.
感情面の問題	20	1.11	0.43	1.19	0.41	-0.79	19	n.s.
薬物使用への衝	20	0.93	0.67	0.94	0.72	-0.08	19	n.s.
動性								
薬物へのポジティ	20	1.21	0.62	1.14	0.60	0.65	19	n.s.
ブ期 待と刺激脆弱 性								
薬害認識の欠如	20	2.70	0.53	2.51	0.40	1.46	19	n.s.
病識の強さ	20	2.77	0.54	2.88	0.41	-1.11	19	n.s.
再発リスク総得点	20	7.29	1.68	7.18	2.06	0.35	19	n.s.

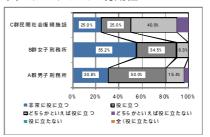
統計的検定は、対応のあるT検定による。

## プログラムに対する参加者の評価

参加者による有効性・満足度評価の結果を図1、2 に示した。どちらも肯定的な回答が大半を占めた。 図1.プログラム満足度



# 図2プログラムの有効性



## (3)プログラムの有効性に関する考察

刑務所 2 箇所と民間社会復帰施設 1 箇所のいずれにおいても、プログラム前後で薬物依存に対処する自己効力感の上昇、高い満足度、有効性が共通して認められた。このことから、対象や実施機関を越えてある程度作成した薬物依存症に対する心理プログラムが有効であることが示唆されたといえる。但し、厳密な有効性の検討のためには、無作為対照試験などが必要となり、今後の課題としたい。

## (4)対象者属性や施設による有効性の違い

まず、対象者の性による有効性の違いについて、男 女の刑務所でプログラムの結果の違いをもとに検討し た。プログラム前の心理テストの結果では、女性の方 がやや活気の得点が高いがそれ以外には大きな違いは ない。プログラム前後の自己効力感の変化では、どち らも多項目での改善が認めるが、女性の方が多くの項 目での改善がみられ、「腹立ち」「昔の記憶」「セックス の欲求」という場面で薬を使わない効力感の改善は男 性に認めず女性にのみ認められた。また再発リスク尺 度で感情面の問題からの再発リスクが低下する変化が 女性のみで認められ、感情状態をみる POMS でも女性で は男性にはない緊張 - 不安の改善が認められた。従来 の文献で、女性の依存症者は、男性より感情的側面、 異性関係、被害体験によるトラウマの影響が強いとい われているが、今回のプログラムはちょうどそうした 女性に特徴的な面について効果を上げていた。

次に、プログラム施行機関の違いを検討する。プロ グラム前の段階で、刑務所の2群に比べて、民間社会 筆記施設の対象は、薬物への対処の自己効力感が低く、 薬物依存という病識を強く持ち、感情的な問題は少な く、薬害への認識が低いという特徴を持っていた。民 間社会復帰社会復帰施設では、薬物依存を病気として とらえ、これを自分で意識的に制御することは難しく、 だからこそミーティングなどをしながら回復をめざし ていくという 12 ステップの考えが教えられており、そ うした影響があると思われた。これに対して、刑務所 群では、「犯罪モデル」が中心に示されているので、刑 罰を受けている状況という意味では、薬害を強く意識 する一方で薬物をやめることを求められていることも あり、薬物依存への対応はできると回答する傾向があ ると考えられる。3 群のプログラム前後の変化も刑務 所の2群と民間社会復帰施設では違いがあり、前者の 方が,自己効力感の向上、再発リスクの低下が顕著で あった。民間社会復帰施設では、刑務所とは異なり、 入所しているとはいえ外にいく自由はあるので、薬物 をやめることの難しさや衝動を感じる場面が多く、す ぐに自信として感じない可能性がある。刑務所の方が、 外に出られない環境で、集中的にプログラムに取り組 み、守られた環境なので自信をもちやすいと思われる。 ただ、これは逆にいえば、民間社会復帰施設の対象者 の方が刑務所群よりもリアルな状況の中での対処を考 えており、データ上の自信の改善は地に足のついたも のであると思われる。刑務所群は、入手可能な状況に 出たときに、培った対処方法やその自信を現実にどう つなげていくかが課題になってくるだろう。プログラ ム内容としては刑務所群ではできるだけでてからの状 況をできるだけリアルに再現する工夫や出所後にも薬 物問題に取り組む連続性をたかめる工夫が大事である (たとえば家族に教育内容を伝えておいて協力いただ くなど)。一方、民間社会復帰施設では 12 ステップの考えと、今回のような心理プログラムの内容のすりあわせを丁寧におこなっていくことが必要と思われた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計 2件)

小澤功滋, <u>森田展彰</u>: アディクションコントロール プログラムの効果検証の報告,犯罪心理学研究,46(特 別号)120-121,2008.

小川昭,<u>森田展彰</u>,小粥展生,中西誠,周布恭子: 美称社会復帰促進センターにおける改善指導の試み - アディクションコントロールプログラムについて - , 犯罪心理学研究 45(特別号)160-161, 2008.

## [学会発表](計 3件)

<u>森田展彰</u>:アルコール薬物依存症に対するコーピングスキルトレーニング,関西アルコール関連問題学会ワークショップ,2008.11.1.(和歌山ビッグ愛).

小澤功滋,森田展彰:アディクション・コントロールプログラムの効果検証の報告,第46回日本犯罪心理学会大会ポ,2008.10.5.(国立オリンピック記念青少年総合センター).

森田展彰: 刑務所における薬物依存症に対する認知行動療法プログラムの開発, ニコチン・薬物依存研究フォーラム・シンポジウム「アルコール、薬物依存をめぐる社会的諸問題と各機関の連携」,2007.9.28.(ピアザ淡海 県民交流センター)

#### [図書](計 1件)

森田展彰: 心理社会的治療. 日本精神科救急学会 医療政策委員会(委員長:平田豊明)精神科救急医療ガイドライン(規制薬物関連精神障害),67-76,2007.

## 6. 研究組織

#### (1)研究代表者

森田展彰(MORITA NOBUAKI) 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師 研究者番号10251068

# (2)研究分担者

中谷陽二(NAKATANI YOUJI) 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授 研究者番号30164221

#### (3)研究協力者

岩井喜代仁(IWAI KIYOHIRO) 茨城ダルク今日一日ハウス・施設長

岡坂昌子 (OKASAKA YOSHIKO) 家族機能研究所:臨床心理士

山田幸子(YAMADA SACHIKO) アパリクリニック上野・院長